



るうてる

2013年
9月
No.794

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
電話 03-3260-8631

■原稿口座 ■00190-7-1734
■ウェブサイト ■http://www.jelc.or.jp
■E-mail ■jelc@jelc.or.jp
■発行人 ■徳野白博 m-tokuno@jelc.or.jp
■印刷人 ■精文堂印刷株式会社
■定価 ■1部 40円 (郵便を含む)

説教 「隔てを越えてゆくため」

日本福音ルーテル本郷教会 安井宣生

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律すくめの律法を廢棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を二つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。」
エフェソの信徒への手紙 第2章14-16節

「世界の為政者の皆さん、いつまで、疑心暗鬼に陥っているのですか。威嚇によって国の安全を守り続けることができると思っているのですか。」「信頼と対話に基づく安全保障体制への転換を決断すべきではないですか。」
広島市長は今年の平和宣言において穏やかに、しかし、厳然と呼びかけました。

「世界の為政者の皆さん、いつまで、疑心暗鬼に陥っているのですか。威嚇によって国の安全を守り続けることができると思っているのですか。」「信頼と対話に基づく安全保障体制への転換を決断すべきではないですか。」
広島市長は今年の平和宣言において穏やかに、しかし、厳然と呼びかけました。

「世界の為政者の皆さん、いつまで、疑心暗鬼に陥っているのですか。威嚇によって国の安全を守り続けることができると思っているのですか。」「信頼と対話に基づく安全保障体制への転換を決断すべきではないですか。」
広島市長は今年の平和宣言において穏やかに、しかし、厳然と呼びかけました。



知里幸恵文学碑 bieii.infoblog より

「世界の為政者の皆さん、いつまで、疑心暗鬼に陥っているのですか。威嚇によって国の安全を守り続けることができると思っているのですか。」「信頼と対話に基づく安全保障体制への転換を決断すべきではないですか。」
広島市長は今年の平和宣言において穏やかに、しかし、厳然と呼びかけました。

「世界の為政者の皆さん、いつまで、疑心暗鬼に陥っているのですか。威嚇によって国の安全を守り続けることができると思っているのですか。」「信頼と対話に基づく安全保障体制への転換を決断すべきではないですか。」
広島市長は今年の平和宣言において穏やかに、しかし、厳然と呼びかけました。

「世界の為政者の皆さん、いつまで、疑心暗鬼に陥っているのですか。威嚇によって国の安全を守り続けることができると思っているのですか。」「信頼と対話に基づく安全保障体制への転換を決断すべきではないですか。」
広島市長は今年の平和宣言において穏やかに、しかし、厳然と呼びかけました。

「世界の為政者の皆さん、いつまで、疑心暗鬼に陥っているのですか。威嚇によって国の安全を守り続けることができると思っているのですか。」「信頼と対話に基づく安全保障体制への転換を決断すべきではないですか。」
広島市長は今年の平和宣言において穏やかに、しかし、厳然と呼びかけました。



和人とを結びあわせる取り組みでもありました。知里にとっても一つの大切な物語がありました。それはキリストの物語でした。虐げられ傷つけられている人を訪ね、救いを届け、共に生きる。文字は残さずとも語る言葉と生き方を通してその愛を伝え、それを受け取る人に人生の新しい一歩を踏み出させる力を与え、神と人をつ結び付けていくキリストの物語に、知里は幼い頃からその心に響きを与えられてきました。知里はこの物語を熱心に求め、受けとり、この物語に動かされてキリストに従い、隔ての壁を取り除かれることに信頼する道を歩んだのです。

日本福音ルーテル教会
第17回 全国青年修養会
2013 in TOKYO

10月12日(土)～14日(月祝)
ルーテル東京教会
参加費 9000円
問い合わせ: syuyukai2013tokyo@gmail.com

宗教改革五〇〇周年に向けて
ルターの意味を改めて考える(17)

ルター研究所長 鈴木浩

「ルター」の「信仰のみ」という言葉は、誤解を与え、今でもあたえている。最大の理由は、「信仰」という同じ言葉を使いながら、考えている中身が違うからだ。ルターは信仰とはズバリ「信頼」だと言った。不治の病にかかっている人間は、医師であるキリストに心から信頼し、治療(つまり、救い)のことで、キリストに身ぐるみ自分を断固として病人を癒そうとするキリストの熱意

(ピステイス、つまり真実)と、そのキリストに自分を身ぐるみ預けた病人の信頼(ピステイス、つまり信仰)とが出会うところで、初めて癒し(救い)が出来事となって現実化する。ここでは、原理的に言って、双方のピステイス(真実、信頼)以外のものが介在する余地はない。だから、「キリストのみ」「信仰のみ」なのだ。ここでは、「セカンド・オピニオン」は無用だし、治療の邪魔になる。キリストの真実と人間の信仰とが出会うピステイス関係が、ここで壊れるからである。このピステイス関係は、常に維持されねばならない。だから、人間は繰り返し新たに、神の言葉で力づけられる必要があるのだ。

日本福音ルーテル教会
日本福音ルーテル教会
合同礼拝
9月14日(土)
午後1時から

詳しくは4面で

信徒の声

『教会』は地域の『ひろば』

浜名教会 鈴木和美



私は、子どもたちの笑顔や歓声にあふれた教会で過ごす事が夢で、浜名教会で私を生かしてほしいと祈っていました。すると、地域に学童保育所がなくて困っていた、働く友人の声を聞きました。そして、「子どもたちの交流の場、居場所を作りたい」「浜名教会を地域の方々の知ってもらいたい」という目的で07年7月、長期休暇時の「こどもひろば」が始まりました。

始めた頃、集まった子どもたち7、8人が、車座になって下を向き一人一台の携帯ゲームに夢中になっていた姿に唾

然としました。この子どもたちは、ゲームしか遊びを知らないんだと気付きました。息子たちと一緒にボードゲームやトランプ、絵画や製作を教えました。すると、工夫したり、発表させたり、新たに発想したりして、表情が生き生きとしてきました。用水路や川で生き物を捕ることや、木を削って刀にしてチャンバラをする事など、危ないからやめさせるのではなく、危険から身を守る経験

11年4月、土・祝日保育希望者が現れました。平日の未就園児保育や親子の遊び場としてもPRすると、必要な所に届きました。さらに、12年4月から放課後保育の要望もあり、今では毎日子どもたちが集まっています。バンドの練習をするために中高生も関わったり、お迎えに来たお母さん方が、子どもたちの遊ぶ姿を見て、成長に気づいたりしています。

外国から嫁いできたお母さんの子育てをサポートしている時に、彼女の実父が母国で亡くなり、教会で追悼会をして、彼女の悲しみに寄り添いました。また、シンゲルで子育てをしていたお母さんが再婚することになり、子どもと共に教会で結婚式を挙げました。

特定の年齢の人たちのためではなく、様々な関わりが自然となされる場になってきました。教会が教会の人たちだけの所ではなく、「ひとびとのひろば」になってきたのです。

この先どうなるのか、私には、わかりません。ただ、可能性が無限にある子どもたちを通して、神様は、多くの方々と関わらせてくださることを信じています。



3月の支援

「ルーテルとなりびと」
<http://lutheran-tomari-bitoblogspot.jp/>

牧師の声

岡崎教会、文化財登録される

岡崎教会 宮澤真理子

7月19日に開かれた国の文化審議会にて、岡崎教会礼拝堂が「登録有形文化財」に登録されることが決まりました。愛着の深い礼拝堂がこのように世の中に認められていく、教会員一同喜んでいきます。

登録有形文化財制度は、従来の文化財指定制度を補完する新しい制度として、1996年より導入されました。岡崎教会は「建築後50年を経過していること」「国土の歴史的景観に寄与しているもの」という基準を満たしています。

岡崎教会の礼拝堂は1953年10月4日に献堂されました。設計は、ヴォーリス建築事務所によるものです。建物の正面に4本の大きな木があります。緑の葉の間から、白い壁と赤い塩焼き瓦が目に入り、中央の尖塔、切妻の屋根、は流れのひさしが特徴です。礼拝堂の内部には、正面の壁にひとときわ大きな十字架が掲げられています。トラスという三角形を単位とした骨組によって天井が高く作られています。正面の十字架にも、



礼拝堂全体にも自然光が豊かに入ります。建築に興味をもたれる方がこの教会を訪ねてく

ださることでしょう。イエス様の福音に出会っていただくきっかけとなればと心から願っています。

間もなく、東日本大震災から2年6ヶ月が経とうとしています。ルーテル教会救援の活動も残り7ヶ月となり、活動終了に向けて様々な準備が始まっています。

今月号では、現在、ルーテル教会救援が展開している活動の中で、仮設支援活動の現状及び最終方法について報告させていただきます。と思っています。

これまでルーテル教会救援では、宮城県石巻市河北町の五ヶ所の仮設団地と河北上町の一ヶ所の仮設団地において定期的な支援活動を行ってきました。

その主な支援内容は、大きく分け、生きがい支援、居場所支援、自立支援の三つの支援活動です。

具体的には、生きがい支援として地元ボランティア団体との「つるしびな」製作など手仕事のモノづくり活動、居場所支援として「お茶っこサロン」やDVD「おしん」鑑賞(写真)など、自立支援として仮設団地自治会サポート活動などです。

J L E R (ルーテル教会救援) 対策本部
現地からのレポート
J L E R 派遣牧師 野口勝彦

最終に向け、来年4月以降も被災地で支援活動を継続するNPOやボランティア団体、そして、地元



第三章「震災後に迎える宗教改革五〇〇周年 その二「絆とボランティア」を支える「自由と奉仕」

震災一周年に当る二〇一二年三月一日を期し、飯能ルーテル教会の招きに応じて勉強会「ルターの『キリスト者の自由』から学ぶ」を四回行った。冒頭にルーテル学院大学市川学長から戴いていた報告を紹介した。二〇一一年六月二三日被災地を訪問…支援が遅れている現状をつぶさに見てきました。…復旧に三年、復興に更に三年と言われています。しかし明日を目指して、被災地で生まれた「希望の光」と共に歩むこと。その歩みを通して、今、日本社会が求めている『希望』と『絆』を再生していくこと。それぞれの場で互いに支え合い生きていくことが大切な時期になっていきます。…復興支援の取り組みは「自分のためではなく、隣人のために生きて仕える生に、神の祝福があるように」(ルター)という使命に基づいた行動であり、今までルーテル教会が築いてきた伝統

述べたルターの会心作。当初ドイツ語、ラテン語で出版、その後世界各国で訳され、キリスト教文献では聖書の次に愛読されてきたと評される好著作。

本書はまず、キリスト者は「自由な主人」でありつつ同時に「奉仕する僕」だという矛盾する二つの命題を掲げ、その聖書の根拠は「わたしは、だれに対しても自由な者ですが、すべての人の奴隷になりました。できただけ多くの人を得るためです」と述べるパウロの言明(第二コリント9・19)。ところが、標題を『キリスト者の自由と奉仕』とはせず、『キリスト者の自由』に絞って二つの命題は根底で結ばれ一致していると論を進める。ルターは「自由」は信仰によってのみ得られ自由を得たキリスト者は、そこで始めて隣人に対し「奉仕の愛」をもつことが可能になると確信していた。今日この書を学ぶ意義は真に深い。「絆とボランティア」は、ルターの言う「自由と奉仕」で裏打ちされて更に復興の源泉となろう。

前号より記載される標題下の「5」は、ルターのドイツ語訳「聖書」刊行時に流行の各章を導く「木版画面文字(Druckbildchen)」(フイッテンベルク、一五三四年)。

こひつじ
スタンドグラス工房 アスカ
山崎種之(松本教会会員)

京都宇治の北小倉こひつじ保育園の玄関上の塔には「こひつじ」の丸窓があります。一般には幼児施設だからおとなしくかわいい動物の一つとして受けとめられていますが、洗礼者ヨハネは、主イエスと初めて出会った時、「見よ、世の罪をとりのぞく神の小羊だ(ヨハネ福音書1・29)と叫びました。主

イエスこそ神の小羊なのです。そしてまた、主イエスは、「わたしは良い羊飼いである(ヨハネ福音書10・11)と言われます。復活の主イエスは、弟子たちと食事と共にし、ペトロとの対話の中で、「わたしの小羊を養いなさい(ヨハネ福音書21・15・口語訳)」と命じられました。ここにキリスト



2013年8月7日から9日まで、南は熊本市から、九州教区、西教区、東海教区、東教区は千葉に及ぶまで、25名の小5、6年生がルーテル学院大会場として集まり、こどもキャンプが無事行われました。今回は初めて、テーマとしてアフリカが取り上げられ、目下、ルーテル教会の成長が著しいタンザニアについて学びました。 キャンプのスタッフは、30名に及び、更に東教区女性会役員の協力も得ました。キャンプの準備は、数ヶ月前から牧師夫人

人数名を中心に多数で綿密になされ、本番を迎えました。3日間、天候にも恵まれ、2日目には、隣接する野川公園へタンザニア体験ハイクに出かけました。恵まれた自然の中で子供たちも次第に打ち解け合い、タンザニアの子供たちの生活を体験し、25人みんなが友達となり、ジュニア・リーダー、リーダーの引率の下、元気に戻って来ました。 当日の夜は、タンザニアに詳しいルーテル学院大の上村敏文先生から、当地の教会での子供たちの堅信式における目の輝きや、延々と続く会衆の賛美や踊り等の様子が映像を通して紹介され、また、ライオンなどの生息する豊かな自然と子供たちの生活を学ぶことが出来ました。 3日間、チャプレンとして市原悠史牧師が、またその補佐として竹田大地牧師が礼拝等を担当してくれました。小5、6年の伸び盛りの全国のこともたちと親しく交わりを持った3日間を、スタッフの方々と共に、神さまに感謝いたします。(キャンプ長 渡邊賢次)

「エリス先生を偲んで」

九州ルーテル学院大学人文科学准教授

パトリック・ベンケ

私が熊本に来た時、一時、エリス先生と話を人の若いアメリカ人に、する機会があり、その人会いました。後で彼について悪口を聴きました。先生にその人についてそれで私は彼に悪い印象のスキヤンダルを聞く象を持ちました。あるのを期待していました。



でもエリス先生はその人の性格と活動について良い事だけ話しました。先生はその人に関しても悪い事を知っていたかも知れませんが、良いことだけを伝えました。先生の話し方と態度はその後の私の考え方を考えました。

が聞いた先生の話の思いでいえば、彼は日本での仕事をしながら見た、たくさんの人の情け深い行動から大きな影響を受けたと感じてきました。エリス先生の経験や感動を聞かせてもらったおかげで、私の行動や生き方まで変わりました。

コロサイ人への手紙3章12〜17節でパウロは日々神様のための行動の助言をします。キリストの憐れみ深い態度をまね、キリストの平和を心に受け入れ、いつも感謝を持ち、神の言葉を考え、キリストの代表として生きる。エリス先生は説教で

以上の内容のテーマを語りました。どの人でも積極的ににはなしました。先生は希望をもってそうしたそうです。そのうえ、私たちに話してくれたいように生活しました。先生を尊敬すると同時に憧れてきました。私に模範を示してくださいました。

「略歴」
1951年9月9日 北米一致ルーテル教会より宣教師として来日
1952年5月 移動図書館伝道に従事
1952年9月〜1956年7月 九州学院英語教師
1955年5月 小国伝道所・天草伝道所の伝道に従事
1992年4月 九州ルーテル学院院長に就任
(退任 2002年3月)
1996年 引退宣教師となる(45年間日本伝道に尽くす)
1998年4月 九州ルーテル学院院長に就任
(退任 2002年3月)

「甦るヴァンプ・カタヤ先生」

定年教師 前田貞一

この稿を起こしている八月四日(日)の夜、丁度この時間の頃、カタヤ先生の葬儀が、兄君、てい、私事、フィンランドに留学する直前、日本に赴任された方や先生からフィンランド語を学び、世話をうけた者である。



先生は、教会合同以前には、東海聖書学院で教壇に立たれ、教会合同後も、教会の教育局に属し、当時の「聖文舎」に所属して「教案」編集に携わられた。その関係で市ヶ谷教会に身を置き、多くの教友をえられた。

私が池袋に赴任すると同時に、池袋教会の宣教師として異動された。池袋では、古老の1姉を毎日訪ね、不測事態に処してくださったこと等を思い出している。定年により、宣教師を退かれた後、二度来日され、熊本へ移住した拙宅への問安をいただいた。フィンランドに居ると日本へ帰りたくなるし、日本に居るとフィンランドに帰りたくなるし、天国では落ち着くでしょう」と言っておられた。

「略歴」
1959年1月5日 E.A.F.の宣教師として来日
1959年1月より 一年間日本語研修
1960年〜1962年 東京・アハコに向い、世界キリスト教視聴教材収集のため
1962年〜1963年 アメリカテキサス州神学研究所
1963年〜1991年 東海ルーテル聖書学院(静岡) 教会教育の教師
1971年〜1973年 横浜教会の宣教師
1973年〜1979年 東京・聖文舎 派遣 6年間
1979年〜1985年 市ヶ谷教会の宣教師 6年間
1985年〜1994年 池袋教会の宣教師
1994年10月 帰国退職
フィンランドへ

復活祭と降誕祭には、互いに電話で安否確認をしていたが、一昨年から連絡不能となり案じ

サウスカロライナ・シノッドを訪問して

総会議長 立山忠浩

米国サウス・カロライナイノツッドのヨース監督の招きに与り、六月二〜五日に開催された総会に、この地で交換牧師として一年間奉仕されたことのある浅野直樹東教区長(今回は通訳が主と一緒に参加しました)。

から、前日にも優るほどの拍手をいただいたのでした。按手式も行われ、対象者が黒人と初めてのこと。保守的傾向を持つと言われるこの地の歴史を垣間見る思いでしたが、今総会では彼らにとってもチャレンジングなことだったのです。

シノツッドの展開する海外宣教地の代表者が一堂に会したのは初めてのことでした。南米コロンビア、タンザニア、そして日本。それぞれに「聖霊の働き」を主題にした報告が求められました。五十年の歴史しかないタンザニアの教会が前日、今や七

今後の交流プログラムのについても協議し、教職に留まらず、信徒や諸教会との交流プログラムを検討して行くことを確認しました。滞在期間中は、リビングストン元宣教師ご夫妻に大変にお世話になりました。空港まで十五分とかからない距離にご自宅を構えられたのは、日本の来客を迎えるためとのこと。その言葉に偽りはありませんでした。

総会全体がそうでしたが、式の雰囲気は私たちの教会と随分異なるものでした。若い黒人の女性の按手というところもあり、とにかく明るく、楽器も様々で、さながらお祭りの雰囲気。若い世代には特に、リズムカルな音楽を用いた礼拝が日本でも必要ではないかと感じました。廊下には展示コーナーが設けられ、被災地の方々が作製して下さったつるしびなを多くの方々に見ていただきました。

第二部
共同・協働の意味と勧め
(14時30分〜15時)
竹内一也
(日本聖公会司祭)
江藤直純
(日本福音ルーテル教会牧師)
石居基夫
(日本福音ルーテル教会牧師)

教会紹介と交わり
(15時〜16時)
主催
聖公会ルーテル合同委員会
日本福音ルーテル教会
日本聖公会

第一日
9月14日(土)午後一時
会場：ルーテル東京教会

第一日
13時〜14時30分
説教者：加藤博道
(日本聖公会東北教区主教)
司式者：浅野直樹
(日本福音ルーテル教会東教区区長)
補司式：大畑喜道
(日本聖公会東京教区主教)
大柴譲治
(日本福音ルーテル教会牧師)

第二日
日本福音ルーテル教会
東教区聖歌隊